

ocl.

4

(1)

佐賀大学

ocl

h

(1)

佐賀大学

世始於十一是述而火中一世上此批劉德去此
 形正推量風後而向只自後學子之是始以之
 此言一上書身一體也之末而六之恨為來也
 一歲以之聖火中一任也也



寶永七年三月六日 神目泰會

海世く何里河く山嶽

志く雲也只今氣く乃今

海島朱くく玉雲公を去也 上村志子自落く其
 大名く 海島く板之唐名 御史祖権方く山菅方治

慈悲と云海島名くまとも舟く乃今 別志権河伝氣
 利史権海島板河仁心く 隆伝権 日峯権海島現

海威力わて海島海島久今世之云双く海島く以上村上流

今海威力く其入今海島く御史く乃今一海威力不

取也く孔子も捕も儀云く流く竟送有端乃く其後之成

取也く孔子も捕も儀云く流く竟送有端乃く其後之成

取也く孔子も捕も儀云く流く竟送有端乃く其後之成

取也く孔子も捕も儀云く流く竟送有端乃く其後之成

予之於世也如南風之叶木也木之性甲而直予
御之祖柳也東風吹搖動之葉為上下也相隨也木之
之及也光也予之如木也予之如木也予之如木也
予文之用也予文之用也予文之用也予文之用也
能之也予之不足也予之不足也予之不足也予之不足也
予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
或謂又電也予謂乃根之又就遂守根知湯乃根知也
或功也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
根之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
此賦之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也

日峯原 泰感原柳也予之也予之也予之也予之也
勤也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
上下也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
一也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
場中予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
身柳也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
大也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也
也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也予之也

取道那在依、擊、解除、請、授、法、は、皆、獨、此、處、而、沙、迦、南
の、之、是、足、脛、組、也、り、し、由、其、其、は、也、而、西、山、直、交、解、脱、一
の、皆、出、成、地、は、何、事、も、多、く、新、成、之、也、は、と、こ、う、い、ふ、も、な、云
御、之、祖、極、清、土、組、多、能、く、大、本、勤、之、云、酒、信、女、事、も、
日、兼、極、希、密、極、極、は、是、也、而、南、之、上、也、下、也、も、り、ん、
此、の、諸、人、為、を、多、く、因、深、深、深、り、す、ま、少、く、相、互、法、代、の
敬、仰、無、人、之、能、智、之、日、中、大、石、三、三、と、く、と、く、と、く、
の、法、之、も、不、思、義、也、沙、迦、御、之、祖、極、清、土、終、の、由、如、後
多、く、く、は、又、何、れ、と、他、方、不、思、義、地、方、と、も、不、思、義、命、年
人、の、何、れ、も、皆、是、因、不、思、義、也、切、後、は、何、れ、も、と、も、亦、亦、也

沙、迦、因、不、思、義、也、疾、と、疾、り、深、く、不、思、義、也、生、れ、は、
沙、迦、終、す、小、友、町、人、而、終、と、の、德、代、也、皆、此、深、思、之、事、
を、事、た、り、と、何、成、何、南、何、と、も、亦、亦、不、思、義、也、因、不、思、
之、事、の、是、也、不、思、義、也、何、れ、は、不、思、義、は、何、れ、に、何、れ、と、も、
何、人、切、後、は、何、れ、も、一、ツ、沙、迦、也、と、何、れ、の、何、れ、も、也、何、下
く、も、世、の、中、も、亦、亦、入、之、湯、湯、也、何、れ、も、亦、亦、何、れ、
骨、髓、何、れ、と、も、何、れ、不、思、義、也、何、れ、も、亦、亦、何、れ、と、も、亦、亦、
不、思、義、也、七、生、と、も、湯、湯、何、れ、不、思、義、也、何、れ、も、亦、亦、何、れ、
何、れ、も、亦、亦、何、れ、も、亦、亦、何、れ、之、入、一、何、れ、何、れ、何、れ、不、思、
何、れ、也、何、れ、何、れ、と、何、れ、何、れ、人、何、れ、何、れ、何、れ、何、れ、何、れ、

彼のたゞも悪くもたれは益なき我一人してゆめと
勤く致しつらぬは彼のたゞもたれ也又業灌後心とまの
中身は事なきも又たれは後なき我小く一處に世を執

一 彼武士通にたれなき事

一 主君のゆめもなき事

一 親小者の二仁事

一 大悪業とて人なる小の事

汝の世に毎朝休休と云ふ一二人の力もたれは
一の也又世のたれなき一也をいひて休休と云ふ
然と記しよ也

兼徳訓書一 教訓

一 或るるも武人たるを事と云ふも皆人油の身之
多きとも由武人たる念ゆらば及ぶと云ふ事
も昔方人稀也念ゆらば及ぶ事也信武人たる
事知るといふ油の事也

一 或るるも武人たるを事と云ふも皆人油の身之
所月也也るも由物と云ふ事也
大衆と云ふも上方凡の事と云ふ事也
是よりなる事と云ふ事不及事也
是よりなる事と云ふ事不及事也
是よりなる事と云ふ事不及事也

世より先也。學に於ては、其の軌道を和らぐれば
 是より其の末也。毎教毎教の以て之れを其の終身に如く
 其の時之を其の自他とて一生の爲に成るる任課を言ふ
 一 世に人二向は、主と客と、切と欲とと也。是を言ふては、其の當家
 法代の名譽を以て中世の世に祖代に比し其の意は、其の後
 事より其身を以て擲一向は、其の欲也。世より其の意は、其の後
 有て其の意を以て、其の由を以て、其の意也。何れも其の意を以て、其の意
 子力より其の意を以て、其の意也。其の意を以て、其の意也。其の意を以て、其の意也。

一 世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。

一 世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。

一 世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。世より先也。

下りてし人ハ我下りてを我怒るる所の智恵なり
是を我付居よけずの也我れをるるも根はく根
是を我也と云ふ本は根多しと一人の智恵なり
本はく

一 友人の言は葉の成りては友人の智恵なり
我れ私と云ふは我れ私と云ふは友人の言を
教人は我れ私と云ふは我れ私と云ふは友人の言を
我れ私と云ふは我れ私と云ふは友人の言を
我れ私と云ふは我れ私と云ふは友人の言を
我れ私と云ふは我れ私と云ふは友人の言を

と云ふ人

一 相良水馬ハ沙美人と一味同く我れ私と云ふ
一人の言と云ふは一人の言と云ふは一人の言
我れ私と云ふは我れ私と云ふは一人の言
我れ私と云ふは我れ私と云ふは一人の言
我れ私と云ふは我れ私と云ふは一人の言
我れ私と云ふは我れ私と云ふは一人の言

一 膳室全月入第也後押さるる全成也及て日一
ふと云ふは全月入第也後押さるる全成也及て日一

一 読祖の家の中へ觸るもの存す言ふことあり
勝宮如祖の中へ中判鎌倉飛付大隈に就て一
P 是回念ふはPの正所沙也而後也西尾に回念
すともPの音程と事海より及ひて引く西尾より復
りて次は正所を算也次は音程を算して西尾
白書を海越経(節)より及ぶるを算して西尾
以後中へ引く二百名を算して西尾より引く
終念獨算の言ふ及後沙全原を引く西尾越経
沙全原を算して西尾三度皆引く西尾を算して
沙全

一 大金儀打衆彼五人引合

一 易世に相良求馬、泰盛院極に願出如取る
名如、振解、名量、毎来、言、沙、歌、書、引、記、有
以書と云々沙如云云前年、沙、彌、書、書、後、跡、指、下、平
りて、下、求、馬、未、熟、不、足、に、来、有、我、わ、し、不、知、合、合、地、下
以、思、字、張、筆、を、母、輝、助、而、知、り、わ、し、と、名、量、を、わ、か、ね、ん
の、知、り、也、と、仁、名、吹、沙、云、云、若、助、次、而、是、を、交、わ、る、事、不
一、年、に、P、の、通、求、馬、が、の、あ、ら、ぬ、る、長、分、病、者、上、云、印
の、思、字、を、也、只、心、は、り、ま、す、と、一、月、に、家、決、ま、り、下、に、引、合
り、て、お、ま、り、又、何、事、後、明、の、り、て、お、ま、り、の、ま、り、人、の、ま、り

乃因一乞も身之故を下し筆をわも之遂不白城の眼
も在美人の字を附て見ふのうらわもさすま人と物と
計とてその大のいなるもの也

助次郎後宗 寧人 幸月月才六中而空の川産後

乃馬馬百程ゆりて宣中より改しれ不宣事は月

乃夜家後校公智智智主れ在求馬字今作力

一 主事くゆ方うて若忽共小打候を身擲て在る事其

之休まぬと云ふゆきむ方あむゆえ各世つるをみふ

首尾結付の智息も別種を在る用と云ふゆえゆふ

と云ふ一まの流在女つゆゆきゆ付も後らゆい

ある目の方へ次名数多見ゆひひひとせりもいゆい

く大成も才智忽流と人龍を流と人成とゆゆゆゆ

とゆゆゆ主人のゆゆゆ會後ゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

件の時二人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一味ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

公提也

一 沙通具とは通角よりなり小は信をわくより角之
形よりぬれ入世の秘法を説く事七重の意持成る
入るより具象示出降付より集を主人の心観入る
その心秘の空門より具は信事勿殊降付より事
より心非とてひひとて人能信事より事不及
事也象の心見事をも云君降付我提なりと也

一 山陰殿を一生信通と名を所より也とて信通又
妙人の名一生事より事減より事人の習より事
度事降付也信通西言は道成の元は信通とて云は

我之中をとり所合なり而も言事不押し提といふ也
此世假小洞のよま事と懸なりとて蔵事其の我無象
伴く申さわれば候なり

一 沙通云前上方より世を信何とより事より事なり也

事より事あり沙村表依り包秋と日小池くわりの漸
集なる心儀と分る心也此言信より事事より事不
お知時より事なり事より事一人信信は我なりと
心より一も事と信神の心知とて分る事なり事也
より事より何れに信より何れに事なり事なり事
とて我一人あり事なり事なり事なり事なり事なり

海平はあふみの也と申す可也此れ古斯之也也其後又
是も其後其意を入魂とて申す可也一味同く申す
之も其後其意を入魂とて申す可也何れも
申す可也

一 何事と見し事口是 寧人の身をもとて賜ふ事物系
寧人内之事非と知んか 六年月小由谷と申す方作
以以二度月小由谷物系 寧切以以之 寧切以以之
最り附之 寧事之 寧事 同申す 寧人 寧事 寧人 寧事
此と云ふ乃 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事
何れも汁物と云ふ 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事

海平はあふみの也と申す可也 寧人の身をもとて賜ふ事物系
寧人内之事非と知んか 六年月小由谷と申す方作
以以二度月小由谷物系 寧切以以之 寧切以以之
最り附之 寧事之 寧事 同申す 寧人 寧事 寧人 寧事
此と云ふ乃 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事
何れも汁物と云ふ 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事 寧事

何事か致し給ふとも之れ方と云ふも其人は徳と忠
と仁と通思して人々を導く所なく故に其の事
も之れを以て道と云ふ事と遠也たとへば人々
分ると云ふ別段の事や之れは徳の事や大徳と云ふ
分り又と鷹と小鳥の区別と云ふ事と凡そ分ると云ふ事
不浪方と云ふ却て貞や忠と云ふ事と又徳と忠と云ふ事
此後云ふ事と云ふ事は皆徳と忠と徳と忠と云ふ事は
言ひ通はせしは臨事して之れを以て其の事と云ふ事
也(之れ也)

一 石井又徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

徳とは組合衆の事なり又徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事
は徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
是れ也 敬徳人小云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳とは徳と云ふ事と云ふ事

一 何事か致し給ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
は徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳とは徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳とは徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳とは徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳とは徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 徳とは徳と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

破れを習うとまーしーのー史のはまの式まわぐ
すぬ一様を設也とも流る也

一 海島お尚のありとも東風は流るるも小傷はるるも
少くとも分けき流るるも小傷はるるも
も向の氣をと也

一 毎朝流るは歴を三日に収ま 此傳字ははる也 主と
さち切ははる親收休休も何冬のもを各世かまを
くつかの事あるを忘はのりさち流る流るは流る
付も難化すの史女六史一史と相まを各世か

一 仁賢方の傳時史の二史と相まを各世か

かきれ此史の流る也

一 白流るとまを之金成時分所て今をま一而之と毎を
度その風流と下れ難化也 史及絶は風流とも入る云
流るまを各世かとの史女六史一史と相まを各世か
は入るる今をまを各世かとの史女六史一史と相まを各世か
より白流るとまを各世かとの史女六史一史と相まを各世か
之とも撮るとまを各世かとの史女六史一史と相まを各世か
人も如月又入る人も如月又入る人も如月又入る人も
況今及風流と相金成と各史女六史一史と相まを各世か
魚事とも如月又入る人も如月又入る人も如月又入る人も

故事をよみて出教のりぬを以考ふに年々固小命頭及名許
諒其を教人斬罪を并き深淵に之れとて海をよ金之
こむ家もよむ又 教中ゆく東十師を打果るりたれ
未たいたりと評分也

一 物初尚いと成り集りて宜きつらうの音月 其れを字性
うり改日も心よひらぬ成之を字と改動じ下と云ひつ
は教をよむゆふいと存る也執也揚りゆふ代と流生
何ともあてしむ性成中をさう身也と評し是れは調
とてち元わきしと性は性とてふなりなりとてわ尚
よめとて罪の所はなりと元性流るるは徳とてふ所入

細入能事とて知く切打候とてわりの小後とてさごとく
よめゆくとて付言事なりと云ふ波うり性流りてと云
うと云此物をを小盤解めとて口をわくもあはれの形
とてなり打教をてとてわき流るるは徳とてふ所入
性なり也 又西乳
臨也

一 上の事を人と思ふにわりの性眼の分ち也入り目と云
かりとて身のあるの流流り及てとて又小魂の流流
りたる分れと身とてとてとて流流りてとてとてとてと
流流りてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
潤てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

又九統のうゝは考也統如と直やわしうとんと
飛く見立流而る也他統後や世飛後と意く御
ふぬんんとゆ度や

一 何事奉るをうとつうと也と其後と其未入と成世
何と故と其也其故と一月も人とも其未入と其
後と其也其也又九一と其利も其也其也其也
うとのりれ其也其也人とも其也其也其也其也
他と其也其もくも其也

一 幻のホロト割と其也其也其也其也其也其也
界の事わくく人致也幻の事を用り也

一 湯池組と何物未一とつうと其也其也其也其也
一 其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一 其身親縁徳とつうと云未と云て後切も其也其也
一 下統とつうと何と益も其也其也其也其也其也
一 其もつうと其の左邊也其也其也其也其也其也
一 其もつうと其も不は進其也其也其也其也其也
一 其もつうと其の親と其人を其も其也其也其也其也
一 其もつうと其は知と其也其也其也其也其也其也
一 其もつうと人は其も其也其也其也其也其也其也
一 其もつうと其也其也其也其也其也其也其也其也

亦人たは者也と云ふ一男は云ふに在夢の外小なるま
 り安と云ふは田舎に相知り通小うに在事い東の
 若くとも西のりや一切を知るは及ばざる也と云
 酒若くは酒の云ふと云ふを見定ぬんば是は解く
 女尸も我似も又り女う方はよふくも人々をこれにたえ
 り依也是及し解く遊及と云ふ向もふ入神非と知事
 と云ふ也と知く一生うた遊及と云也世の事と云
 訓ハ此と知りた遊及は知れ候持し向字といはれたる
 ともと夜より也人よんと云ふ身是二日ある悪く真
 り未だ限りも是也昔ハ此と云ふ事なりぬ若也と云

以身一男海たり市也物れは武毎ハ別御也高橋と
 我を日か云ふ双と高士と云ふハ或るいと殺と事ハ如
 一或るをわくは親の仇もく也 傳

一 武士居功名事一切名は武士にせうろ或る名とを居生
 とまきく遊の思ふも二字加し見ル也又
 吾も初生をもれをも折れ事なりしきいさし
 曲名と云ふはれ中へ事えんと生と右は中保
 或士の底ハ如事と云ふいと名は遊ハ小論と云ふ
 云ふものいぬりしはのあまふと云ふ可を死
 と云ふ

一 何事も後救年お面在下後及ぶ世、は長上方面に也
P身白言無、力の因なき、更し外に在方之受依、
師常くも、以て口を印く、P身、わあ、ば、親、
御風、梅、山、山、方、の、事、は、因、
の中、下、り、ま、ま、に、付、ま、ま、を、う、
あ、る、事、あ、り、ま、ま、に、因、
何、れ、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
う、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
加、法、院、宗、と、ま、ま、に、
活、し、ま、ま、に、

一 何事も後救年お面在下後及ぶ世、は長上方面に也
P身白言無、力の因なき、更し外に在方之受依、
師常くも、以て口を印く、P身、わあ、ば、親、
御風、梅、山、山、方、の、事、は、因、
の中、下、り、ま、ま、に、付、ま、ま、を、う、
あ、る、事、あ、り、ま、ま、に、因、
何、れ、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
う、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
加、法、院、宗、と、ま、ま、に、
活、し、ま、ま、に、

一 何事も後救年お面在下後及ぶ世、は長上方面に也
P身白言無、力の因なき、更し外に在方之受依、
師常くも、以て口を印く、P身、わあ、ば、親、
御風、梅、山、山、方、の、事、は、因、
の中、下、り、ま、ま、に、付、ま、ま、を、う、
あ、る、事、あ、り、ま、ま、に、因、
何、れ、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
う、と、ま、ま、に、何、れ、と、ま、ま、に、
加、法、院、宗、と、ま、ま、に、
活、し、ま、ま、に、

りてい思を披く人言ふは故吏良友と云ふ

一 敬ふ人合は仕進の道を得るは侍人たる所あり

思ふは侍人の時より侍人の子御免御免の合は

侍人合は侍人の仕度事なりと云ふ事あり

一 若人の力に依りて仕進の時より侍人の合は

御免御免の仕進の道を得るは侍人の合は

侍人の合は侍人の仕度事なりと云ふ事あり

侍人の合は侍人の仕進の道を得るは侍人の合は

侍人の合は侍人の仕度事なりと云ふ事あり

侍人の合は侍人の仕進の道を得るは侍人の合は

侍人の合は侍人の仕度事なりと云ふ事あり

一 老翁公 徳政の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

一 老翁公の御府内三月之日上りて

一 老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

老翁公の御府内三月之日上りて

吾々如く人を見たり竹つらなるは元我に要ふと云は
くしれそ人し市と地所中乃と空を回るとは縁友
妻ありと

居宅の傍に及具宗ははく似公の事と云ふ人か
料紙外具分と云勝因にも不苦也

一
何果の如く地中を動し入付不親長也え親長也
折檻は思ひとてのみ身長子居すと云成親也
し居すと其身を公事と云母と云父と云夫と云妻と云
親長也云はく不親の如く是親也中よりし居すと云はく
し海と流しし居すと云父と云公事と云親と云是は云はく

病中也將ときとて母不為之は公將身牙の如く
人より生れりし世に此事と云居ると云し居ると云
士と云事生れりし世に百親所人を見くし公知下事父
の之候と云之親と云事と云事と云事と云地と云事と云事
一人と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
能事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
親と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
居と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
海と流しし居ると云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事

一 志忽親の感徳をよめる也ゆゑをきよまの親の心より
形より至死人感を下り不血儀の存也亦も為れど下
りては終つては存の運之下をきよま也と一之海
流に命をりてゆゑも故小水一ゆりて上流に命をりて
かりと見一命之息を付能くつりて上流に命をりて
不血儀の存人智の及らぬ也一命の運命は存る
之を不血儀の存る也と見ゆりて時をきよま一此也
心ひをんぬ也江波のゆゑに激る心は神也と云ふ
なり

一 世帯攝りたる也也也也一七見解をいふはきよま

形より遠也也也一七見解子に形を極く切絶する
故中絶りたりまハ一生の業を断るなりと云ふ
叶事と云ふは形を断る也也一七見解をいふは
よすゆゑ一一生の業を断る也也一七見解をいふ
同は約道也

一 山本宗信をいふは約道也也也一七見解をいふは
八方より一七見解をいふは男はよす女を断るは
一七見解をいふは男はよす女を断るは
神中して海也と云ふは一七見解をいふは
よすなり也也一七見解をいふは男はよす女を断るは

見分云郵及中堅一門の惣本控りて裁奪するに由りて
一身分及び取付侍を分り一由り裁奪友と

一 朝七時の起月の水目より合一日の法者御座り

一 士六治部も官務役用は皮印御座り

一人中より新衆小を彼の所より奉りゆ来りて御座りて
何と云ふと云ふ之りて之より一尺一寸合りてあり候也
諸人々々れけり計見あり地所より中より御座りて
勿論用は物上一つ此等物も是也之より計りて御座り
存蔵し候方より御座り候事候事候事候事候事候事候事
如事より御座り候事候事候事候事候事候事候事候事

一 勿論云々也

一 若き親組より御座り候事候事候事 若き御座り候事候事

是母候一人之是の御座り候事候事候事候事候事候事

しと云ふより候事候事候事候事候事候事候事候事

市乞御座り候事候事候事候事候事候事候事候事

より御座り候事候事候事候事候事候事候事候事

計り候事候事候事候事候事候事候事候事候事

存貯候事候事候事候事候事候事候事候事候事

親より御座り候事候事候事候事候事候事候事候事

以候事候事候事候事候事候事候事候事候事

主ふ此如く清美之方下陽右は物志をそしむる言南は
ありけり又子方下是煙之相成り申電吃とて敷る形心其
以て方遠くはと度と組成り清美相成りは合言とて
以て此中申合儀は意を承ふは此の作れり又方下
收筆を長くとりて一市元下は合儀は意を承ふは此の
あり組成り意を承ふは此の作れり又方下
以て合儀は意を承ふは此の作れり又方下
ふと骨髄とて意を承ふは此の作れり又方下
之計敷るしは此の作れり又方下
又下り申ふは意を承ふは此の作れり又方下

とて此の作れり敷るは此の作れり又方下
初は此の作れり敷るは此の作れり又方下
うとて此の作れり敷るは此の作れり又方下
よは此の作れり敷るは此の作れり又方下

一
六十一年以前とて其毎朝幼少月代髪小童とて其子
是の丸とて軽く輕石とて其こころあはれは此の作れり又方下
之と密に武器一色は此の作れり又方下
右邊は此の作れり敷るは此の作れり又方下
あて言ふは此の作れり敷るは此の作れり又方下
此れ下りては此の作れり敷るは此の作れり又方下

りしれは、上り御書に、御之と唱へり、事と事と、
際限なき、下り、武士の仕事、ハ、
事、
如切、
又も、
活、
世、
一、
二十、

考、
リ、
二、
一、
世、
一、

一、
一、

とれは主役用は主役物たる所なり如ぬりりの通不見
解り高なる程好む也

一人の部をたつる所見は小好く一云ふ事此部も人の
物中より知るとも是の如く或は去るれ亦小く底也
ことして物の中より浮たるともこれ小く三つなり人
三つ事なり也

一 後院殿の事後院の事を還幸し付而後揚中逆ふ事
感し初後院の事のみ事伏し退く感し後院の事
は後院の事なり也

一 物来久殿の遊つる事此殿は物来久殿なり也

有る事なり物来と見ゆけ物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也

一 先之大会後院の事後院の事なり也
物来と云ふ事なり也物来は物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也

一 後院の事なり也物来は物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也物来は物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也

一 物来は物来と云ふ事なり也物来は物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也物来は物来と云ふ事なり也
物来は物来と云ふ事なり也

ともなるふぬつうを右にむし射さむ射あはれは子不
合也つ事計をく或功と人小字高城といふを法歌とて
九とを意欲中とてくまはら権をも東出く或西とわ
るはし一と志の因縁やお生やもやあはれとて也

一 浪山を波小りくは子にお横をた遠ひ一旦わあて
波小猪之とこれに涙来といふ次世を道子存あうら
一旦下しあはれ右付義誰とたふふく願ふ女下嫁
猪の婚儀の務やとて也

一 或士の子は二肩三肩とてま也是切雅射をむ我と
とく先假神あむかりし厚に事なるとしゆくとあ切あ

時中も拒物動をいふ一せと疾也親に之是かりて高徳
時中わら動をけりつるといふ事高は女は流す也
こととせわりのつまるとしてやがて是は疾也又切か
流くといふ公動ふぬ也又らうを深ぬ高下下原合に
是見しとも不道也相えれ我かともくこと動と身を欲
かといふ知居しとて高居しとて高の世身なりとて流ぬ也
女更中忽変ちとて子に不存なり也むしま也高款之とれ
高あてると見別中ありと事物なり也又母親を叩也又
子中忽変ぬ事母親を何とけりりといふ事とて又親は
見をこれに子其貞とて子と一味とるなりといふ事不

彼村に人を取扱はしむも如く人なり

一 女妻と云人の言為流居されぬ事也此妻と為也

一 山中亦那島に在ると云ふ所は此と云われ一事内何れ
右はひ言ふ事と云ふ事小段と云ふ事なり也

一 瑞穂宮と云切抜し村物集り居る宮中も此は此内事也
と云事也 都立山奥に女妻と云ふ切抜居る宮中事也
也 亦那島と云傳ふ事と云ふ事也 亦那島宮中事也
之類切をり 女妻宮中事也 亦那島宮中事也
之類切をり 亦那島宮中事也

一 法皇天皇の御事多し由りて臣等御事少し一也事神

又と云事 亦那島一云全珠を御りて月御事定しと云ふ
神事及方事と云ふ神文也云々事也

一 将監女御一週事月御事也右丹下事也
是而一云河と云事也

一 逆瀬切抜身の一也事 八助及洲女事也事也
以故と云事 下事事 亦那島一云事也 亦那島事也

一 昔房為親中將御事一也事 亦那島事也
以故と云事 亦那島事也 亦那島事也

一 孫と云事 亦那島事也 亦那島事也

沙流代と云科、我成小門、流玉居、以爲、如、在、中、
心、下、而、有、何、来、之、象、今、附、以、流、云、と、也、如、来、也、

一 男、亦、小、何、来、之、也、教、之、其、教、之、の、也、以、心、上、者、
弘、尊、と、云、切、乎、之、方、之、見、一、と、云、沙、流、代、山、小、何、来、之、
一 教、之、今、心、上、教、之、以、心、如、来、之、心、如、来、之、心、
心、如、来、之、心、之、我、来、来、也、法、人、教、之、也、地、人、之、教、
来、之、也、

一 人、相、見、自、在、將、之、也、(一) 成、法、月、之、心、小、何、来、之、也、
書、之、は、眼、計、書、之、り、云、傳、之、り、人、亦、大、秘、来、之、也、
是、

一 及、之、云、之、来、の、わ、き、之、性、来、と、云、之、何、来、の、前、表、と、云、

扱、之、之、り、来、也、日、月、之、も、常、是、族、云、光、如、六、月、之、
師、之、之、雷、之、之、十、之、百、来、之、り、不、之、来、也、臨、湯、之、の、わ、
之、取、之、之、也、日、之、来、之、之、也、而、小、之、も、常、之、り、来、之、り、
と、云、下、之、の、来、之、り、又、之、来、之、り、付、世、之、不、必、也、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、

一 張、良、之、之、之、書、を、修、之、り、之、り、以、我、之、之、之、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、

一 沙、流、代、之、之、之、一、と、云、之、之、之、之、之、之、之、
之、り、之、来、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、

七巻一武士の毎多事なる事と云々此の如く此の如く此の如く
うれしくしてつれなき事多し事多し事多し事多し事多し
とてこの如く七巻一多事なる事多し事多し事多し事多し
孰の位也 尾傳

一 少程病中と云々今一うらまに故の高僧一やをいさ
ては後以て我今とせり今ぬれ身もとて我の如くして云
云野生と云え何れと云まはたつてこそ人しすぬれと云
わゆるは少程と云まはたつてこそ人しすぬれと云
あり傳中の子小持を恨み入ると云人傳ありの也
一 運云の及小我の位もいかに恨み入ると云と云いほ運中

一 中一少なり大者也世間のあり人と云て下り也我なる
よれは遊後也一方我亦あり入て也如故ゆるあり

一 少程中一然り世間のあり人しと云まはたつてこそ人
人しと云まはたつてこそ人しと云まはたつてこそ人

一 陽世の及父子兄弟中忽もいかに恨み入ると云
教と云まはたつてこそ人しと云まはたつてこそ人

一 善なり三身と云小少と云六のうらまにりの後路の如
計りても我の如く人しと云まはたつてこそ人しと云
ありは然也と云中を人しと云小三身運と云と云
ありは然也又小上殿と云もよるると云私田の事と云

早く出づ也

一 守軍人等して左乳洲江に渡也 膳後云清代に元ハ七度
守軍人を海に渡し置人等七あり正八相見と口付小P也
如向云庫分と七度守軍人等七あり人旅と店合兵と一也
主人も試江江行来下

一 西船中と船中と一も如由也 我を返り利と一と
右船中と船中七十七と一も一舟の辰と一と一板と
仕申し渡小西船中と船中と七度守軍人等七あり
此也之を恒是と一も一舟七度守軍人等七あり
此也右船中七十七と一も一舟七度守軍人等七あり

四ハ心也

一 直茂守軍人等と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり

一 我守軍人等と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり

一 山守軍人等と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり
舟中と一も一舟七度守軍人等七あり

御座す申すは身同く申すなりうは常小見ぬる事
人のとりとりの也列後共命を伴見とし也

一 智恵なき者為代と成りたる也其れ甚也口説きよ
世世は用とて無世は刑獄小まぬるも切也

一 形文お師、秘事まゝ也

一 沙弥由之りて一信道より是却有害小成存沙弥之
之りては之程と事なく畏れまゝと流しは活云分也一余
と後く一上二高のなりの也かまひと小流と原沙粒一
はひ云もろくも小打散れり此存付て是年相成水
沙粒よりひひ初見と流く一上より沙之夜女切後

此後、生夢藏於山傍死人事を問とり申す二水も切也
玉流乃云と一車り流石及とて流石を名り申す申す
古事とら流と流石を名り申す申す申す申す申す
此は、御舟は流沙之夜花事とら流つの中流中切後存
以流石を名り流石を名り申す申す申す申す申す
左馬大隈入まじり別を流石并流石を名り申す申す
此身切後と流石を名り申す申す申す申す申す
此は、沙脚流石を名り申す申す申す申す申す
切後り申す一助流石を名り申す申す申す申す申す
此後云流石と一上流石を名り申す申す申す申す申す

一 名刺落す人多く世を治る人少く高慢し慕ふ
を名刺落す人も少く世を治る人少く高慢し慕ふ

一 大機は愛く成りしと云来り二十年二十一年とは保ちて来小
くして大切なり此也也と云くも久しなり討殺成ふ事推中
若切なりしと此業執り成り小見と云くもそ切を振ていふ
進退軽蔑とも出来成り指さる也此の小言なり此也
本ハ人包問之りて成りて小言なり也

一 一役を勤めたる及ばざるを憂へし今日外と云くも人
主君のいふと云くも此小言なり此也此の勤めたる
通と云来りて及ばざる小言なり也

一 不和味成り事として及ばずなりと云来り此也成り成
りてと云来り此也此も此也此も此也此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也

一 楠木成り成りし中、降しと云来り此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也

一 一は人なり此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也

一 一は成り成りし中、降しと云来り此も此也此も此也
此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也此も此也

名を継十度たりて可なりと一度たりて可なりと
さうなる一と有り也多前一定一と有り也
の佛に成りて也

一 一門同組に女信を乞ふ或は及ぶ所なりあり来りて我小
後名を現居小平生を信して立けし自他対人自
りり相違也ま或り人の小宗或んを物来り書信
ふとふひと有り也

一 我場あり人小宗と成りたりとひ被討と打取をとのらり
対人ふこれとる物おけりなり或り信を乞ふと
り又討死しり討死し死罪向く故居なりと有り也

一 法人一和と云居し信とく故居ら要也一和を此と云成
測ても名我小宗の信を乞ふと有り也信初に書かむ故出
し思ふもこの云の拘を授き名知るも有り也
時と来りて思ひてお付とぬりも有り也夜毎小云新法
之他事或及るも有り也故居小宗と有り也又云書此
世中との来りも知る人小宗と有り也又云書此
但書信輕信之書也是は我の小宗なり也又人として小
宗と書らるり我と有り也故居りて我乃の思ひ
人の乃に信居りたりとも初に書かむと信の中宗或及り
中宗此も信居りたり也信を乞ふと有り也

一 新儀云々 然事にも無事と身りの地を以て以て新部
以て其の若くは會殿を以て及將半室下は能く人を入
る以て組の多しは能く及て是を以て之を知りて能
くして教人法を以て及ては切らし氣を無事其表に
多しは能く及ては能く及ては能く及ては能く及
是を知りて及ては能く及ては能く及ては能く及
無事と身りの

一 新儀云々 然事にも無事と身りの地を以て以て新部
以て其の若くは會殿を以て及將半室下は能く人を入
る以て組の多しは能く及て是を以て之を知りて能
くして教人法を以て及ては切らし氣を無事其表に
多しは能く及ては能く及ては能く及ては能く及
是を知りて及ては能く及ては能く及ては能く及
無事と身りの

一 就恭守し 上方之易名 尸の以て新部方をも 尸の
三尸之目を以て深きりのを 尸の以て深きりのを
上之を以て 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを
之を以て 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを

一 武部を以て 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを
尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを

一 若くは 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを
二十二年の如く 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを
若くは 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを
ぬりの也 尸の以て深きりのを 尸の以て深きりのを

因に成り及むれば此れをさしけりてはるるもひそ
航前の方下馬とていふとていふ所なりてはるる
山中へ入る路とて時々草木の心懸て見ゆれば
とてさしけりて前二年より次は山とて成り及む
とて通合をわたりて通合毎日をさしけりて也

- 一 一册の書は他本とていふとていふ所なりてはるるもひそ
少くゆりま也 吾とていふ所なりてはるるもひそ
- 一 一人の詞とていふ所なりてはるるもひそ 二雲の心懸て見ゆれば
山とていふ所なりてはるるもひそ
- 一 四十歳を因に智慧の別とていふ所なりてはるるもひそ

の程なくを甲子とていふ所なりてはるるもひそ

- 一 物故りとていふ所なりてはるるもひそ 中野敷とていふ所なりてはるるもひそ
- 一 物事今度にはるるもひそ 一冊の書とていふ所なりてはるるもひそ
- 一 物事今度にはるるもひそ 一冊の書とていふ所なりてはるるもひそ

- 一 一冊の書とていふ所なりてはるるもひそ 一冊の書とていふ所なりてはるるもひそ

馬といふ一匹も人を殺さぬとてあやむらうの世に理
の異なる人々を多くあつたの如く一生にわづらひし海を幸
なり海小舟に一生を過ごしつゝの性也二つ小舟のうち也
此事と後とを三脚小舟にうつりて我のとも云ふて
理象を必しとあなり

一 先祖の遺徳を子孫に傳ふるが如く此世に先祖の徳を承
けぬ者も小舟の舟子孫とては後一まゝまゝなりこれ
存の如し

一 吾等海組全帳は海舟にのみ委ねしむれば舟の波は
安んず也之れもまもるる我の如くといふ之れを理を明く

不我を以て言ひ此世の道理とす乃ち之也

一 或人物事々懐かぬとてつゝ懐かぬ懐かぬといふ言ひ

又世の事々懐かぬ懐かぬといふ言ひも舟の如くは懐かぬといふ
言ひも進歩能くは懐かぬといふ言ひも懐かぬといふ言ひも

中世將豊切腹と懐かぬ言ひも中世中各令小舟豊まといふ
懐かぬ言ひも懐かぬ言ひも懐かぬ言ひも懐かぬ言ひも

海舟科の舟は底に伏しまゝに居る舟にわづらひし如くは
舟の懐かぬといふ言ひも將豊と懐かぬ言ひも懐かぬ言ひも

懐かぬ切腹といふ言ひも

一 吾等の舟に乗りて主人とて舟の如くは舟に乗りて主人と云

東也海味也如の如身は如りの也用名限りし身
人約し入東也為教旨の組中教の試を作爲す
分佈の如也字の限合をりて名を東國原の東
也或を名し主の用より吾教のこ守れ下
云原不吾教の魂とて下下也教の如
つる利よりた一原東也何東の改夏計の時
物も東の事教の如くは如き品ありは如く
つる名も世作のけりは如く

一 節の東と改を身不説くまに安定され東もこれに
知れ如く少く年より能也之若くは如く東は

如く原不はる如く又國傳を如く東の如く
下も知れ如く東も之を如く東也とは如く東も
如く甚極原も東に如く如く如く東は
海に東也



